

東海聖会報

日常の中での 主の語りかけを大切に

山崎 忍

「イエスは、二その舟が岸にあるのを御覧になった。
漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。」
(ルカによる福音書5章2節)

主イエス様は、わたしたちの日常生活の只中で、わたしたちに語りかけ、取り扱われ、造り変え、召し上げ、遣わされるのです。

ペトロをはじめとするガリラヤの漁師たちは、夜通し漁をしました。しかし、その晩は一匹の魚もとれませんでした。翌朝、彼らは徒労の中がっかりしながらも、次の漁に備えて網を洗っていました。そこにイエス様が来られ、「二その舟が岸にあるのを御覧にな」られました。群衆がイエス様の話を聞きたくて押し寄せて来たので、その舟は、御言葉を語る恰好の場所となりました。しかし、それだけでしょうか？

まず、イエス様は、この舟に乗り込み、漁師たちの日常生活に介入してこられました。イエス様はペトロの舟に乗り込み、少し漕ぎ出すように頼まれました。とても非生産的な一日を過ごし疲れを覚えている人たちに、「私が力の源だ」とイエス様は言っておられるかのようです。今もイエス様は、聖霊様を通して、わたしたちの日常の中に働かれておられます。家庭においても、職場でも、学校でも、また地域社会の中においてもです。

第二のことは、主イエス様は、御言葉と祈りを通して、わたしたちと深く交わり、わたしたちを日々養われるということです。ペトロたち漁師は、一晩中漁をした後で、眠い中、明日の漁に備えて網を洗い、家に帰ってご飯を食べて寝るつもりだったでしょう。でも、彼らにとっての一日の終わりのとき、イエス様が教え始められ、彼らは、御言葉を聞きました。イエス様は、彼らの日常である舟に乗りこまれ、そして、教えました。それは、彼らの生活が、主イエス様の御言葉によって導かれるためです。

そして、第三のことは、御言葉への応答と実践です。イエス様は、話を終えると、「沖へ漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい。」と命じられました。ペトロからすれば、自分は漁のプロです。これから、漁をしても無駄な時間を過ごすだけだと思ったでしょう。しかもイエス様は、「沖に漕ぎ出して」と言われました。浅瀬ではなく、沖に漕ぎ出すように言われたのです。イエス様は、「わたしを信頼して、もっとあなたの日常の生活をわたしに預けなさい」と言っておられるのです。

ペトロは、とにかく「お言葉ですから」とイエス様の言葉に従いました。すると網が破れそうになるほどの魚が捕れました。自分の常識では腑に落ちないことでも、御言葉を実践するものに、主は大いなる御業を現されます。夜通し漁をして小魚一匹取れずに戻った舟、つまり、彼らの日常生活の只中に、イエス様が共におられ、イエス様の言葉が語られ、彼らもその御言葉に従ったとき、主の御業がなされました。

そして、最後に、イエス様は、ペトロの日常の中で、彼を取り扱われました。おびたしい数の魚を見たペトロは「主よ、わたしから離れて下さい。わたしは罪深い者なのです。」と言って、イエス様の足元にひれ伏しました。尊敬する一人の教師が言った言葉だからと思っていたイエス様は、単なる偉大な教師ではなく、主なる神であることが分かり、イエス様を礼拝したのです。ペトロは砕かれ、そして、人間を取る漁師として遣わされました。

主はわたしたちの二その舟(日常)をも御覧になり、そこでわたしたちに語っておられます。わたしたちは、毎週礼拝から一週の歩みへと遣わされますが、日々の生活が御言葉と祈りで満たされるとき主の大いなる業を見ることが出来ます。日々、主の御声に聞き従うものを主は取り扱われ、造り変え、そして、この世に遣わされるのです。もっと大胆にあなたの生活の場に、イエス様をお招きするために、日々御言葉と祈りを絶やさな生活へと導かれて参りましょう。

(ウェスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会 副牧師)

第17回遠州聖会「御前で闘いぬいた人」

2013年2月24日(日)午後2時30分～

場所 インマヌエル浜松教会

講師 福江^{ふくえいとし}等師(高知加賀野キリスト教会牧師)

聖書箇所 創世記32章22～32節

説教題 「御前で闘いぬいた人」

ハレルヤ 主の尊き御名を賛美申し上げます。

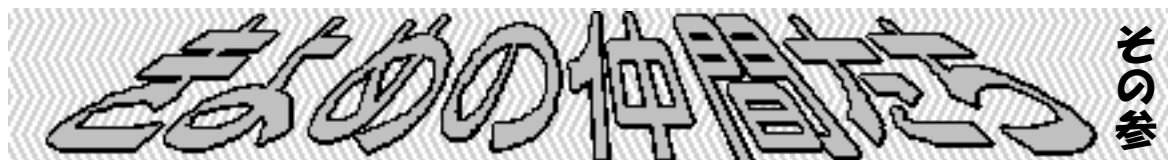
2月24日(日)午後、第17回遠州聖会がインマヌエル浜松教会で開かれました。当日は、毎年恒例のようになりまして、春一番の強い風が吹く中でしたが大勢の方々が集められ聖会を持つことができ感謝しております。聖会での特別賛美は、インマヌエル磐田教会のベラカ・コワイヤーのみなさんによる「ハレルヤ・コーラス」の力強く美しい賛美を聞くことができ感謝でありました。

講師としてお招きした高知加賀野キリスト教会牧師の福江等先生は、はじめに創世記32章「ヤボクの渡し」のところより、「御前で闘い抜いた人」と題し、神の御使いとの格闘を通して変えられていったヤコブについてお話下さいました。わたしたちの信仰もときに弱くなり、不信仰になることがあります。し

かし、わたしたちが自らの弱さと醜さに気づかされ、不信仰を悔い改める時、そこに神様の限りない赦しがあることを体験いたします。福江先生も、自らが悔い改めて回復へと導かれた数々の貴重な「きよめ」の体験を隠さずお話下さいました。おかげで、聞くわたしたちも「きよめ」のことが大変よくわかりました。

御使いから名を聞かれたヤコブが自らを「ヤコブです」と答える場面があります。ヤコブが「自分の名は人を押しつける弱い醜いヤコブです」と、その罪を認めたとき、「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。」と言われる場面があります。わたしは、神としっかり向き合ったヤコブが神様から祝福を受けるこの場面が大好きです。わたしたちも心から悔い改める時、そこにあるのはキリストの十字架ですから感謝です。

今回お忙しい中、御用して下さった福江等先生に心から感謝致します。福江先生の働きが祝され、さらに主に豊かに用いられますよう心よりお祈り致します。(浜松ホーリネス教会牧師 高橋要介)



ホーリネス 安城キリスト教会



1957年7月、福音十字軍の働きによって安城の伝道が開始されました。1959年から定住して伝道した最初の女性伝道者原口イキ師は、「決心者がいるから」ということで来てみたら、決心者はすでに信仰がなく、泊まるどころもなく駅のベンチで寝たとのことでした。現在の檀原久由牧師は7代目になります。1974年に個人名義で土地を建物購入、2011年12月に教団名義に変更することができました。

定例の役員会はありません。日曜午後、随時みんなのいる場で協議して物事を決めています。

礼拝は以前は男性の出席が多かったのですが、最近は男女同じぐらいの出席になっているとのこと。檀原先生は昨年のTHA総会後の学び会で「牧師を100倍楽しむ法」というお話をしてくださいました。教会の皆さんも肩肘張らずに、「クリスチャンを100倍楽しむ法」を見出しておられるのかなあと思いました。

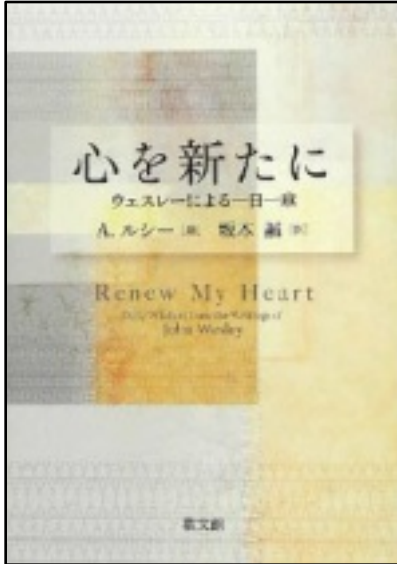
安城キリスト教会ホームページ <http://www.jhc.or.jp/anjo/>

(取材 4月26日 石田聖実)

本の紹介

「心を新たに」
ウェスレーによる一日一章

A. ルシー[編集] 坂本 誠[訳]



この度、ナザレン教会の教職であり、ウェスレーの研究者であられる坂本誠師の訳された本を、皆様に紹介出来ます事感謝致します。私自身も今年の初めから、毎朝の祈りの時間に読んでいます。この本は、ウェスレーの「聖化」の教理を、日々説いた内容であり、一日一章という単位で編集され書かれています。聖書の説く大切な「聖化」の教理であるため、内容が深く重い感じがします。日常的な体験談や、会話的な部分はありませんが、学びのため、繰り返し読む事が出来ます。訳された坂本誠師は、長く神学校で教鞭を執られておられ、教理的な研鑽と信仰、和訳の優れた知識も同時に味わえます。さらに高く深く「きよめ」を求めておられる方、是非この機会に御購入下さい。聖書の恵みの「きよめ」を、心を新たに日々体験出来ます。

(猪木原 敦)

「キリストにとどまる人生」
毛戸健二著



ここに、名古屋を愛し名古屋の地で半世紀以上に亘って主に仕えて来られた毛戸健二先生の著書「キリストにとどまる人生」をご紹介します。この本は著者の経験から、「内住のキリストによって生きる」ことの素晴らしさを、豊富な経験と実話を交えて大変わかりやすく書かれています。300頁強の内容が5つの章に分かれていて、その内の第4章「私の内におられるキリスト」が全体の70%を占めており、そこに著者の意図を感じます。きよめの生涯を机上の学びではなく、ご自身の体験を交えながら書かれているので、とても共感できます。また信仰の全体像を整理してくれますし、信仰者としての課題に光と助けを投じてくれます。読み終わった時、色々戦いはあるけれどもやっぱりキリストと共に歩んで行こうという励ましと希望が残る一冊です。

(高山清和)

最新刊のお知らせ

教文館からW. J. エイブラハム 藤本満訳「はじめてのウェスレー」が出版されました。この本は「イラストで読む神学入門」シリーズの一冊。藤本満先生:「訳しているうちに、博学ぶりと見識の鋭さに惹かれました。正直、入門書なのに、久しぶりに刺激を受けた専門書。おすすめします。」とのこと。



20th 東海聖会

テーマ 主のお言葉と私たちの日常
講師 山崎 忍師

1965年宮崎市生まれ。19才の時に浅草橋教会の黒木安信師より受洗する。早稲田大卒業、カリフォルニア州立大留学。1995年ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフ。1998年にウェスレアン・ホーリネス神学校に入学。2000年より米国アズベリー神学校に留学、神学修士、牧会博士課程を修める。2005年よりウェスレアンホーリネス教団福岡エルシオン教会に赴任。2012年4月浅草橋教会副牧師。



とき

6月29日 土 2:30PM
30日 日 2:30PM

東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市市中村区中村町7-46福音センター

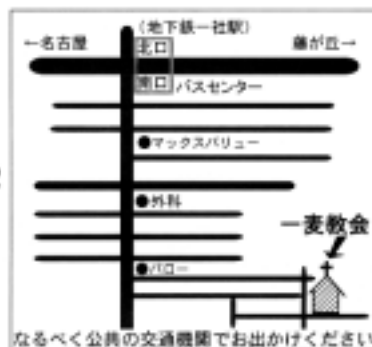
☎ 書記 / 0562-97-6468

ところ

活けるキリスト
一麦教会

名古屋市名東区亀の井2-102

☎ 052-701-4221



総会及び役員報告

今年のTHA総会の学び会では、「この東海地域でホーリネス信仰を標榜するお互いが、実際どんな教会形成をしているか、果たしてどれだけ知っているのだろうか？」ということで、二つの教会の牧師にお話いただきました。インマヌエル名古屋教会の内山勝牧師は名古屋教会で実践している「デボーションと分かち合い」をプレゼンテーションソフトを使って説明してくださいました。また兄弟団名古屋教会の川津良知牧師は前任地豊橋教会での20数年の体験を通して、信頼を作り上げながら伝道していくさまを証してくださいました。



役員会の構成が一部変わりました。この数年空席になっていた副会長に秋山師が就き、書記には古田師が就きました。

会長 松浦 剛師(日本イエス名古屋教会)
副会長 秋山直光師(中京聖泉キリスト教会)
書記 古田大展師(一麦教会)
会計 関 昌宏師(春日井栄光教会)
役員 猪木原敦師(ナザレン名古屋西教会)、
新田栄一師(ホーリネス城北)、
高山清和師(インマヌエル名古屋東伝道所)、
広報 石田聖実(日基尾陽教会)

今号は聖会の当日配布になってしまいました。
また印刷サイズも小さくなってしまいました。
お詫びいたします。

(石田聖実)

←総会午後の学び会で発表を聞く参加者たち